

働く

「ワクチン休暇」道内でも拡大

接種当日以降も

新型コロナウイルスのワクチン接種の時に利用できる有給休暇「ワクチン休暇」を制度化する動きが、企業で広がっている。道内では医療従事者や高齢者の接種が始まっており、2回目の後は発熱などの副反応が出る場合も多い。現役世代が安心して接種できる仕組みとして注目を集めている。(尾張めぐみ)

北海道 コカ・コーラ ポトリング	休暇は原則は接種日当日のみ。副反応が出た場合は翌日以降も取得可能
北洋銀行	勤務時間帯に接種した場合は、その後出勤できなくても勤務日として認め、副反応が出た場合は5日を上限に取得可能
北海道銀行	接種日のほか、副反応があった場合は翌日も取得可能。同居している家族の接種の付き添いや、副反応の看病でも取得可能
大丸札幌店	接種日のほか、翌日から4日以内に最大2日まで取得可能
フュージョン	接種日のほか、翌日も副反応があれば取得可能



新型コロナウイルスの代表的な副反応の割合

症状	接種翌日	8日後
発熱(37.5度以上)	36.4%	0.2%
接種部位の痛み	88.0%	0.4%
接種部位の腫れ	12.6%	0.2%
倦怠感	66.3%	1.2%
頭痛	48.1%	1.7%

※厚生労働省の公表資料を基に作成
※2回目の接種後

接種当日や翌日以降も取得を認め、年次有給休暇とは別の、特別休暇とする企業が多い。休日の混雑を避け、平日に接種しやすい環境を整える狙いもあるようだ。

北海道コカ・コーラボトリング(札幌市)は5月、ワクチン接種に合わせて特別有給休暇を取得できる制度を導入した。2回のワクチン接種日のほか、副反応が出た場合は翌日以降も追加で取得できる。対象はグループ会社を含む正社員など約1600人。

道内では4月から高齢者の接種が始まり、同社でも65歳以上の社員がいることから環境整備を急いだ。社員の宇井雅彦さん(35)は「いずれは自分も打つことになる。副反応もあるようなので、有給で休める制度があるので、安心して」と話す。

北海道銀行も今月2日に特別有給休暇を制度化した。ワクチン接種当日と副反応が出た場合はさらに1日、休むことができ、同居の家族の接種の付き添

このほか、コブさつぽろや北洋銀行、大丸札幌店、北海道電力、マーケティング業のフュージョン(札幌市)もワクチン休暇を導入した。

厚生労働省によると、2月17日〜5月16日の国内の新型コロナウイルスのワクチン接種回数は計61万2406回だった。代表的な副反応は発熱や接種部位の痛み、倦怠感、頭痛など。いずれも接種翌日に症状が出る割合が高く、その後は徐々に軽快する傾向が見られた。

発熱など副反応に対応

副反応について、富良野市の富良野協会病院は、接種した職員の状態を独自に調査し結果を公表した。2回目の接種翌日に倦怠感があった人は71%、筋肉痛や関節痛があった人は63%だったが、7日後には症状のある人はほぼゼロになった。同院の感染対策担当で副院長の角谷不二雄さん(61)は「ワクチンの副反応は一過性で重くはないが、2回目の接種の翌日は休めた方が安心」と話す。

苫小牧市の病院に勤務する理学療法士の笠松大輔さん(33)は、医療従事者として4月にワクチンを接種した。2回目の接種後は37・8度の発熱があり仕事を1日休んだところ、年次有給休暇とは別の運用で有給休暇扱いとなった。

「適切な対応だと思った」と笠松さん。現役世代の接種が始まるのを前に「副反応があるのに出勤を強要されたり、休んで賃金が減ったりするケースが出てくるかも。あらかじめ対応をルール化しておくことが大切」と訴える。

道によると、道内で3日まで2回のワクチン接種を終えた医療従事者と高齢者は計13万7847人。12〜64歳の接種時期は「現時点では未定」としている。